

学校保健・産業保健との連携を図ってみよう！

ライフサイクルを通じた健康づくりを支援するため、学校や企業等と連携を図ることが求められています。保健師が、学校保健や産業保健と連携し協働しようとした時、どのような課題があるのか、実際に連携を促進するために工夫していること等を調査し、解決の糸口を探りました。

	学校保健との連携上の課題		産業保健との連携上の課題
連携が不十分	<ul style="list-style-type: none"> * 定期的な意見交換の場がない * 健康課題の共有が図れていない 	連携が不十分	<ul style="list-style-type: none"> * 産業保健との連携の場がない * 産業保健分野の課題やニーズがつかめていない * 健診結果等、データを共有するしくみがない
行政側の問題	<ul style="list-style-type: none"> * 組織的・統一的な取組みができていない * 地域保健分野からの積極的な活動が不十分である * 現状把握や地域診断に基づく健康課題の明確化が図れていない 	行政側の問題	<ul style="list-style-type: none"> * 産業保健分野への取組みの優先度が低くなっている * 地域保健側から積極的な働きかけができていない * 保健所や市町村の役割が不明確 * 人的資源の不足、担当者のスキル不足
学校側の問題	<ul style="list-style-type: none"> * 連携の必要性が理解されていない * 健康課題に対する優先度が低い * 学習要領や組織体制に課題がある 	企業側の問題	<ul style="list-style-type: none"> * 健康課題に対する優先度が低い * 企業側と共通認識が図りがたい * 連携窓口が不在 * 企業として取組みが遅れている * 精神疾患に対する偏見がある

課題解決のための方策

7つのポイント

- 1 学校（産業）保健の実態を把握し、健康課題を分析し課題の共有化を図る。
そのうえで、PDCA サイクルに基づき具体的戦略を立て、目標と役割を共有する
- 2 具体的な共同事業を一緒に取り組む（モデル事業、人材育成等）連携を図る
- 3 個別事例をつなぐシステムを作ることにより、支援が継続するしくみをつくる
- 4 情報交換の場を持つ（学校保健委員会、管内の養護教諭部会、地域職域連携推進会議等）
- 5 健康増進計画を推進するとともに、学校（産業）保健と連携する意識と体制を整える
- 6 教員（事業所職員）等への研修を行うことで知識を普及する
- 7 地域保健分野から情報発信する等、地域全体に働きかける



先進事例

【学校保健】

- 学校保健安全委員会・校長会等会への参画
- 健康づくり市民会議・食育推進連絡会議等
行政の会議に教員が参加
- 学校保健関係者との合同研修会の開催
- 学校に啓発媒体や講師等、資源を提供
- 発達障がい児・食生活・性教育・エイズ教育等の専門的なニーズへの対応

【産業保健】

- 住民運動を企業がサポートするしくみができている
- 企業に向けた情報発信を行っている
- 自治体の自殺対策会議に企業が参加している
- 研修会の開催、予算の確保
- 地域職域連携推進会議の開催

さあ、あなたの地域で
何に取り組めるか、
いろいろなメンバーで
話し合ってみるから
始めましょう！



ソーシャルキャピタルを 醸成してみよう！

ソーシャルキャピタルとは

ソーシャルキャピタルの定義には統一されたものではなく、概念整理は明確にはされていませんが、アメリカの政治学者のロバート・帕特ナムは「人々の信頼、規範、ネットワークなどの社会組織の特徴で、互いの利益のために調整や協力を促進するもの」と説明しています。

公衆衛生の分野でソーシャルキャピタルが注目されるようになり、日本でも尾島が行った調査では、行政及び社会福祉協議会の担当者からみて、住民相互のつながりが強いと感じている市町村では、平均寿命が長く、悪性新生物の標準化死亡率（SMR）が低いなどの結果が出ています¹⁾。その他にもソーシャルキャピタルが高い地域では、犯罪が少ないことや災害対応力が強いことなども明らかになっています²⁾。

1) 尾島俊之：ソーシャルキャピタルと地域保健、保健師ジャーナル、VOL.67 NO2 2011

2) 内閣府国民生活局市民活動推進課：平成 14 年度「ソーシャル・キャピタル豊かな人間関係と市民生活の好循環を求めて」

ソーシャルキャピタルを醸成する意義

日常の活動の中で健康課題の解決を目的として、「地域住民の自助・共助を推進したい」とか、「地域の活動力を向上させたい」と思ったことはありませんか？これらはソーシャルキャピタルを醸成した時に保健師が感じる地域の変化に他なりません。ソーシャルキャピタルを醸成する意義は、まさにこの点にあります。

また、保健師は「地域が主体的に動く、あるいは自律的に動く」といったような公衆衛生看護活動をした時には、「保健師の仕事が面白い」、「意欲が湧く」、「保健師活動の醍醐味であると感じる」といった経験ができるようです。

さあ、あなたも、生き生きとした公衆衛生看護活動を実践するために、ソーシャルキャピタルの醸成を経験してみよう！



平成 25 年度地域保健総合推進事業「ソーシャルキャピタルの醸成や活用にかかる保健活動のあり方に関する研究」【概要版】
この概要版は、自治体に所属する保健師を対象に調査を実施し「ソーシャルキャピタル醸成の実態、醸成を行う上での促進要因や必要条件、スキル」や「学校保健や産業保健と協働するための課題や促進要因」についての分析結果をまとめたものです。

保健師がソーシャルキャピタルの醸成を図る目的

保健師を対象とした全国調査によると

- ◆都道府県では、「当事者のグループ化」、「障がい者・母子等の居場所づくり」、「地域のリーダー育成」、「見守り等地域でのネットワークづくり」の順に多くなっていました。
 - ◆市町村では、「健康なまちづくり」、「地域のリーダー育成」、「見守り等地域でのネットワークづくり」の順に多くなっていました。
 - ◆政令市・保健所設置市・特別区では、上記に加えて「障がい者・母子等の居場所づくり」「当事者のグループ化」「運動・禁煙等良い保健行動の継続」もあげられていました。
- 保健師活動指針においても、ソーシャルキャピタルの醸成を通じて、地域特性に応じた健康なまちづくりを推進することが保健師のめざすべき基本的方向性として示されています。

ソーシャルキャピタルの醸成を図るために必要なスキル

ソーシャルキャピタルの醸成に必要なスキルは、主に3つです。

「健康課題の把握」「地域の声を聴く」「人と人とをつなぐ力」

上記の3つのスキルが、ソーシャルキャピタルの醸成を図るときに必要となります。そのため、地域診断により地域の健康課題を明らかにする一方で、さまざまな場面で地域住民の声に耳を傾け、住民が何を求めているか、住民が目指す地域の姿を明確にすることが大切です。さらに、コミュニケーションを通じてすり合わせながら目標を明確にして、必要な関係機関や人と人とをつないでいくことで、ソーシャルキャピタルの醸成をはかります。

これらは、保健師活動の本質である「みる・つなぐ・動かす」の基本な活動とも言えます。

その他にも

「社会資源や地域のリーダーを発掘して活用する」「関係機関と連携する」「住民を信頼する」「熱意を持つ」ことも大切です！



ソーシャルキャピタルを醸成する具体的展開方法



【保健師である、あなたの役割】

まず、**地域診断**をしましょう。保健統計データの分析だけでなく、日頃感じている健康課題をあげてみて、その課題を裏付ける情報を探しましょう。地域の健康課題がいくつか出てきたら、さらに、地域の役員や関係機関の名簿を作って、それを持って地域に出ましょう。地域の役員や関係者に具体的に健康課題を提示し、地域の健康課題を共有しましょう。些細な情報も地域との関係作りには大切です。そして、お互いに意見交換できるようになったら、地域で一緒に事業に取り組む等提案してみましょう。

日頃の活動では、1回きりの家庭訪問を数多くしていてもソーシャルキャピタルの醸成は図れません。サービスにつないだり、同じ目的を持つ人同士をつないだり、個別のコーディネートを意識して行っていくことが大切です。同様に地域のコーディネートをする。その**活動の積み重ね**がソーシャルキャピタルの醸成を図るための基礎となります。健康課題の解決のために行った活動は、定期的に見直し、PDCAを回す事を心がけましょう。

ソーシャルキャピタルの醸成に役立つ**自己研鑽**としては、本や雑誌、文献を読むこと、セミナーに参加すること、研究、研究発表すること、雑誌に投稿することなどが役立ちます。

【統括的役割を担う保健師の役割】

統括保健師であるあなたは、まず朝礼や連絡会の定例化を図りましょう。保健師同士の課や係を超えた**横のつながり**を作ることも大切です。**自治体独自の「保健師の活動指針」**を策定し、それを保健師間で共有することが大切です。

人材育成マニュアルを策定し、到達度を確認し、新採用者に対する教育制度を作ることも大切です。

一般の保健師に対しては、個別事例に埋没するのではなく、ソーシャルキャピタルの醸成に結び付けられるような視点を持ち、地域役員と面識を持ったり、関係機関と地域の健康課題について意見交換する場を作ったり、事業の協働を持ちかけるなどの活動ができるよう、助言・指導しましょう。長い保健師経験や業務遂行能力の高さは、ソーシャルキャピタルの醸成に大切なものです。それを活かせるよう意識するとともに、後輩や同僚に先駆的事例を示したり、その活動の意味を補足するようにしましょう。

また、そばで寄り添い相談できる人の存在は重要で、これからソーシャルキャピタルの醸成を図ろうとする保健師の良き相談相手になってください。

「ソーシャルキャピタルの醸成を図ったことがない」というあなたへ

時間的余裕が無いとあきらめていませんか？

特に、多くの事業の実施に追われているとそう思いがちです。でもソーシャルキャピタルを醸成したことがある人への調査では、時間的な余裕をそれほど必要としていませんでした。むしろ、直接住民に関わる業務があることが強みとなっています。日ごろの活動があるからこそ具体的な課題の把握や解決策の提案につながります。そのことを意識し、地域の方々と共有し合う工夫をしてみてください。

また、**醸成を図ろうとして上手くいかなかったあなたも**、もう一度自分の地区を見直して、健康課題を住民や仲間と共有してみましょう。仲間とのつながりを大切に、悩んだときは抱えず込まずに同僚や先輩に相談しましょう。きっとヒントがもらえるはずです！

さあ、地域と一緒に取り組める事業は無いかな等、皆で見直してみましょう！

経験談より

ソーシャルキャピタルを醸成するって～例えばこんなこと～

<Aさん> 担当地区で子育てグループを作り育ててきた。その後、そのメンバーが他の母子保健事業のボランティアとなる仕掛けを作ること、地域での子育て支援が充実してきた。

<Bさん> ALS患者の家庭訪問をしていて、地域で孤立していることに気づき、患者同士がつながれるよう患者会を立ち上げた。互いの交流を通して家族も含め不安の解消につながっている。



【組織的な体制づくり】

ソーシャルキャピタルの醸成を図るには、**統括的な役割を担う保健師の配置**が必要です。また、上司の理解、同僚の理解、組織の理解・合意が大切です。組織の中で、**共通の目標を掲げ、合意を図るプロセス**を大切にしましょう。担当地域が変更になったり、人事異動があった場合は、ソーシャルキャピタルの醸成過程をきちんと次の担当者に伝えましょう。